

議会だより ここのえ

No.110 2015.7.17発行

発行／九重町議会

編集／議会広報特別委員会

平成27年7月17日

〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1

☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809

メールアドレス(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp.



6月定例会

- 平成27年度一般会計補正予算 P.2
- 常任委員会報告 P.3
- 視察研修報告 P.5
- 一般質問 7名 P.6
- わたしのひとこと P.13

野上 南 区 篠原 信義さん

飯田 中村上 時松 信子さん

九重町消防大会
ポンプ車操法の部 優勝の第4分団9部

平成27年 第2回定例会

本定例会は6月11日から6月23日までの13日間開催されました。
議案4件、報告1件、陳情1件、請願1件、発議3件を慎重に審議しました。

平成27年度一般会計補正予算

補正額	55,279千円追加
補正後総額	8,316,279千円

◆ 補正予算ピックアップ ◆

歳出

○総合子ども園施設整備用地購入費（土地開発基金より）	43,810千円
○防災無線個別受信機購入費（130台）	6,194千円
○通知カード・個人番号カード関連事務負担費	3,593千円
○旧南山田中学校解体周辺住民影響調査委託費	2,490千円
○青山住宅広場遊具整備費（ブランコ・滑り台）	2,000千円
○山の日制定プレイベント委託費（ウオーク等）	1,000千円

第3回臨時会（6月1日）

総合こども園（仮称）園舎新築工事を承認 工事費総額 7億5,003万円

総合こども園（仮称）新築に伴い、3件の工事請負契約締結を承認しました。

- 建築工事
 - ・契約金額 5億7,122万円
 - ・契約方法 要件設定型一般競争入札（総合評価方式）
 - ・契約業者 新成建設(株)玖珠支社
- 機械設備工事
 - ・契約金額 9,744万円
 - ・契約方法 要件設定型一般競争入札（総合評価方式）
 - ・契約業者 協和工業(株)（大分市）
- 電気設備工事
 - ・契約金額 8,107万円
 - ・契約方法 要件設定型一般競争入札
 - ・契約業者 大徳電業(株)（大分市）

総務建設産業常任委員会

審査報告

議案
1件

陳情
1件

発議

可決された議案

みなさんの陳情は
こうなりました。

九重町過疎地域自立促進計画の一部変更について

町道吉部藪の肩線は、平成27年度に過疎債を活用し社会資本整備総合交付金事業で舗装改修工事を予定するもので、一昨年に行った舗装診断調査に基づくもので、利用者の通行の利便性を図るものであり可決しました。

町道認定を求める陳情について

湯坪下行政区区長矢野和好氏から大字湯坪に位置する町道大下松山線の基幹集落センター横の分岐より25m区間の町道認定を求める陳情であり、陳情の趣旨は理解できるところから採択しました。



町道認定を求める現地調査

少人数学級の推進など定数改善、義務教育費国庫負担制度2分の1復元を求める意見書について

一人ひとりの子どもに、より丁寧な対応を行うためには、一学級あたりの児童生徒数を引き下げる必要があります。

また、さまざまな子どもたちへの対応、いじめ・不登校などの課題もあります。

こうしたことの解決にむけて、計画的な定数改善が必要です。

三位一体改革により、義務教育にかかる国の負担が2分の1から3分の1に引き下げられました。

自治体の財政力や保護者の所得の違いによって、子ども達が受ける「教育水準」に格差があつてはなりません。

この2点について、国に対し意見書を提出することで一致しました。

九重町議会会議規則の一部改正（出席の場合の議会欠席届け出を規定）

議会における欠席の届け出の扱いに、出席の場合の規定がなかったため、社会情勢などを勘案し、「議員が出席のため、出席できないとき」の項を新たに加えることで、意見の一致をみました。

九重町議会傍聴規則の一部改正（傍聴席に持ち込みを禁止している「杖」を削る）

議会の傍聴席には、持ち込むことを禁止されているものが決まっています。社会情勢にに応じ、今まで禁止されていた「杖」については、持ち込めるように規則から、「杖」を削ることで、意見の一致をみました。



ゆとりがほしい緑陽中3年生のクラス

審査報告

議案
1 件

集会所建設事業費分担金賦課徴収条例の一部改正について

町の事業を利用し集会所を建設する際、資材や、人件費の高騰により、建設事業費が増大しており、地元負担金を現行の20%から10%に軽減するものです。

主な提案理由

- 建設費の急激な高騰
- 住民の負担を平準化

ちよつとまった
執行部！

建設費の高騰は、昨年の時点で把握できており、年間の予算、事業を審議する、3月議会に提案すべきであることを強く指摘しました。

全ての町民に
等しく光を

町民の負担を平準化させる点についても、全ての町民を対象とした施策なのか疑問が残ります。

私たちが委員会の調査では、町に莫大な建設費をかけさせず、地区内の民家を活用し、地域コミュニティに頑張っている行政区もあり、今後、小規模集落や高齢者の多い行政区では、この状況が増える事も考えられます。その様な、自助・共助の精神で頑張っている人々には、何の支援も、行われていません。町民の意志を代表する議会としては、町民の声なき声をしっかりと聞き、全ての町民に光が届く施策を求めねばなりません。

委員会の
日程を追加

この重要性を踏まえ、委員会の日程を追加し、慎重に審議を行い、今後、必要な対策案を執行部が考案するとの回答を確認し、可決しました。

委員会を終えて

行きつく結果はひとつですが、そこに至るまでの過程で、どれだけの議論が行なわれるか。この重要性を改めて、認識をさせられました。



毎朝、地区公民館でラジオ体操(書曲地区)

議長発議による

「地方創生特別委員会」設置

人口減少や高齢化社会を迎え、地方自治の環境は大変厳しい状況に置かれています。九重町においても人口が減少し、このままでは地域が成り立たない可能性が出てきました。このことから九重町は、国の施策である「地方創生」に取組むため、「まち、ひと、しごと創生本部」を設置し、地方版総合戦略(5カ年計画)を策定している最中です。

議会においても、策定段階から十分な審議が必要であり、この「地方創生」に参画することが重要と考え、「地方創生特別委員会」を設置しました。議長を除く12名で構成し、チェック機能を果たすと共に、提言を盛りこむことが重要と考えています。

議会は、地域の声を集約する場でもあり、総合戦略に生かす場でもあります。活力ある地域づくりを進めるために、皆さんの声を是非聞かせてください。

視 察 研 修 報 告

総務建設産業 常任委員会

「協働のまちづくり 活動について」

北海道釧路町

町づくりを進める上で町民参加と協働を前提とすること
を定めた、町づくり基本条
例を制定し、町民・地域・
行政による協働の町づくりを
行う団体への支援と連携を
図るために町民に周知し
て活動団体の登録を
行っている。登録できる
団体はボランティア活動
等の町民の自主的、組
織的、継続的な活動を
行っている団体であつて、
町としては登録団体の
評価をして活動支援を
行っている。また3年間
で再登録としている。

こうした団体の意見を
町の計画策定に活かし
ながら町づくりに取り
組んでいます。

「農産物と温泉熱 利用について」

北海道弟子屈町

農業と観光の町として、地
産池消に醸造用のブドウの試
験栽培をしている、町民農場
に計画的に町民に植えさせ
て、町のブドウ酒を作り上げ
る取り組みをしています。ま
た摩周湖を抱える観光地で
あり町の特産物を目指し、
自然エネルギーの温泉熱や雪
などを最大限に活用し需要の
高い冬季出荷を目指して寒冷
地である北海道でのマンゴー栽
培に着手しています。

「地域担当制の 取り組みについて」

北海道斜里町

行政・町の業務への町民参加
をより一層促進し、自主自立の
町づくりをめざし住民参加と
協働による行政運営を目指し
て、取り組みべき事項のつとし
て職員の地域担当制が開始さ
れました。実施方法は希望し
てきた自治会に一定以上の行

政経験のある主幹以上の職員
を配置し、行政との連携や自治
会活動の充実を支援する。この
制度の評価と課題を整理して
内容を見直し継続しています。



マンゴーのハウス栽培

今回三つの町を 視察して思うこと

町の規模、条件は違いますが、どの町も観光と農業の町
であるが少子高齢化や経済の
不安定で厳しい現状であり、
町で取り組めることに行政と
町民が一体となつて町づくりに
懸命に努力していることを
強く感じました。

九州と北海道ですが共に農
業と観光のまちであり、課題は
一緒です。町民との協働の町づ
くりをどう知恵を出し合つて
進めていくかです。視察で学ん
だことを今後の町づくりに活
かすよう努力していきます。

教育民生観光 常任委員会

「子育て支援 親が学ぶ機会が充実」

石川県内灘町

町の中心部にある、子育て
支援センターで研修しました。
このセンターを昨年度、利
用した親子は一万組に迫る勢
いで、町外の親子も非常に多
く利用されています。

特に参考になった事業とし
て、単に親子で遊ぶ場、相談
センターの設置にとどまらず、
子どもの年齢に応じ親とし
て、必要な考え方、子との接
し方、これらを連続して学ぶ、
親業口座。

参加者が少ないのでは？と
思ったが、毎回、申込者が多
過ぎること、又、参加者の
満足度は100%であるとのこ
とに感銘しました。

来年度、開園する総合子
ども園に併設が予定されてい
る、我町の子育て支援センター
に、大いに参考にしていきたい
と思います。

「人材育成の必要性」

富山県上市町

我町の課題のひとつは、人
材育成であると考え、町民に
広く、学習の場を設けている
上市町を視察しました。

「子育て支援で人口増加」

長野県南箕輪村

立地条件は異なるとはい
え、10年も前から、積極的に、
子育て支援を行い、長野県内、
唯一人口増を続ける、南箕
輪村を視察しました。いづれ
の研修先でも、今後の町政に
大変参考となる研修となり、
この研修を町民のために、活
かすべく、委員全員で議会活
動に取組みます。



子育て支援

ずばり町政を問う

7名が一般質問

- ◆町民の安定した生活は
.....地方創生を活かしたい
- ◆ふるさと納税で町の救済を
.....7月をめどに取り組んでいる

その他、地方創生事業、防災対策について質問しました



藤原 三治

●町民が食べていける政策は

藤原

国はやる気のある市町村については支援するといわれている。自然、温泉地熱等豊かな資源に恵まれているながら、充分に活かされていかない。今までやって来た成果が見えない。

どんどん変わる時代の流れの中で地方創生の名の下にあり、農林商工、食べていける考え、攻めの戦略を考えているのか。今こそ発想と決断と実行が求められている。具体的にどう考えているのか。



町長 農業については梨の着果状況も良くない。米価の低迷により米だけでは生活が厳しいと考えており、農産物全てのブランド化、6次産業としての加工を含めて地方創生を活かした事業、組織づくりを考え検討していきたいと考えている。

●ふるさと納税の進捗状況は

藤原

九重町の納税額は県最下位。これをどのように考えているのか。早く取り組みれば九州内でも12億円を超える市もあり、せっかく国が地方と都市の税金の偏りを是正するために作った



ふるさと納税返礼品の数々

制度を。農家も町民も苦しい、厳しい中で返礼品に農産品、特産品を！減反や耕作放棄地の解消にも役立つのではないかと考える。遠慮せず早急に前向きな攻めの政策を取るべきではないか。町民が生活しやすく、九重町に移住したい、結婚したい、子どもを産み育てたい、そんな町にしたいと思うが。

町長

本年から一万円に対し三千円の返礼品を考えて3月から広報で特産品の事業をしてきたが、周知が十分でなく6月追加募集して7月に締切り、取り組んで行きたいと考えている。

増田 裕子



◆ 消防団体制の充実を

.....OBの力を活用した体制を検討中

◆ 公共施設の建設は

.....公平公正で、できるだけ地域で

◆ 公民館の建て替え、十分な事前協議を

.....しっかり行っていきたい



九重町消防団特別点検

● 消防団体制の充実、女性消防団員の増加を！

増田 日々の安心安全な暮らしを守る消防団の活動は非常に心強いが、団員の会社勤めが増え日中は大変だと聞く。

町長 10年前より65人減って現在401名、内被雇用者277名で対応は厳しい状況。

増田 玖珠町では2年前から「消防団応援隊」を設置しているが、当町でもOBの力を借りるような新しい体制づくりを進めているか。

町長 他市町村の事例を参考に現在検討中である。

増田 災害時、女性消防団員の存在は心強く必要である。現状と今後増員していく計画は。

町長 県下では223名の女性消防団員、九重町は2名。今後特に増員計画はないが、消防団とともに新しい体制を検討していく。

● 公共施設の建設を

わかりやすく

増田 「役場で作ると高い」「もつと地元業者で安く作れないか」との声が多いが、建築費はどういう基準とプロセスで算定するのか。

町長 まず設計段階で、県などの基準で見積もっていく。

契約も入札など法にのっとり公正に進める。公共事業の場合は順守する基準を満たさないといけない。現場の管理や、きちんと工事がなされたかの確認等も行う。

増田 地域の公共工事は地域でというのが理想であるが。

町長 基本的にそう考えているが、公正公平が第である。入札基準を満たしている地元業者は積極的に応札してほしいし、育成と指導にも取り組んでいきたい。

● 住民に寄り添った政治を

増田 来年から公民館の建て替え計画が続くが、今後「ふれあい交流センター」として公民館機能を超える中身の具体的な計画は。

町長 地域づくりの拠点というところで現在取り組んでいる。

増田 使い勝手の良い、今後利用者が増えるような町民の施設にするためには、地域住民との十分な話し合いが不可欠だが、協議体制は。

町長 南山田では5月下旬に会を発足し、今後協議を重ねていく予定。



活躍する女性消防団員

◆合併せず自律の町づくり10年の歩み語り合う場を拡充

◆奥野、伍代跡観光情報発信拠点に来年にむけ慎重に検討



佐藤 明郎

●合併せず自律のまち この10年の歩み

佐藤 10年前、自律のまちを選択し、住民主体の町づくりを掲げたが、どう感じているか。

町長 住民が参加しやすい仕組みづくり、行政、町民双方の意識改革に取り組んできた。

行政も様々な情報提供しているが、関心の少ないものについては厳しい状況もある。

●行政のおもい 町民のおもい

佐藤 今の手法を否定は、しない。しかし、相手の思い



熱心に聞き入る傍聴者

を気軽に交わす場が不足している。この事は、計画にも上げられており、重視すべき。

町長 機会の拡大がまだ十分ではないというのも認識している。今後、マイナンバー制、地方創生もあり、管理職が出て行つて、しっかりと説明すべきとの思いで来年にむけて努力している。

佐藤 町政に対する町民の関心が薄れていく懸念もある。

町民と執行部が語り合う場を可能な限り設けるべき。

町長 呼んで頂けば、いつでも出て行く。「出前講座」を用意している。呼んでもらう、態勢づくりも必要。

●九重町の観光情報 発信拠点を設置

佐藤 高速道路の料金改定後、国道210号線を走る、県外ナンバーの車が随分、増えてくる。九重の観光情報発信について、この国道210号線に目を向けてはどうか。

町長 観光協会が、情報発信の拠点という事で、中村駅に事務所を持つて行っている。その分を含めての検討が必要である。

●奥野の伍代跡、残す 施設有効活用に着目

佐藤 あれだけの県外車を見過ごすのは、もったいない。



県外車の通行が増えた国道210号線(奥野)

日田から来ても、途中、ゆつくりトイレ休憩する所もない。そこで、奥野地区にある伍代跡、定住促進住宅を建てる計画だが、残りの建物は残す事となっている。

設備投資も最小限で済む。素通りの車に、立寄ってもらう場所としてはどうか。

町長 ふるさと館との両立という事にはならない。

指摘されたことは、当然だと思うが、ふるさと館が抱える課題もあり、奥野の施設の有効活用、これについて来年にむけて、しっかりと検討していきたい。

佐藤
太治



◆ ふるさと納税

..... 現在返礼品の募集をしている

◆ 補助事業の地元負担の状況は

..... 軽減している

● ふるさと納税

佐藤 本年度より、納税額の3割の返礼品を送るようにしたが、4月以降他の市町村は5割というところもあるが、見直しの考えはないか。

町長 3月の定例会で3割とし予算化もしているので現状のままで進める。

佐藤 プロジェクトチームを立ち上げて早急に取り組んだらどうか。



活用が望まれる町の特産品

町長 現在、担当課で返礼品の募集をしリストを作成している。

● 急傾斜地工事の 地元負担について

佐藤 本年度より、戸数5件以上の県単工事については地元負担はなくなったが戸数5件以下のところは町単工事一割の地元負担となったが、要望者はどれくらいあるか。

町長 本年4月から施行したもので、まだ三カ月しかたつておらず要望者はない。

佐藤 三カ月しか経過していないが、申請者がないのであれば自己負担を無くすことは出来ないか。

町長 自己負担を無くすということは、九重町の長期財政を見たときに難しい。

● 中山間地総合整備事業 地元負担について

佐藤 中山間地総合整備事業の地元負担はどうなっているか。

町長 中山間地総合整備事業、地元負担率の状況は25年度10% 26年度7・5% 27年度5%と軽減している。

佐藤 地元負担は何%ということではなく、地元負担金はいくら払えるか、話し合いで決めるということは出来ないか。

町長 農業関係の整備事業については地元負担を軽減している。話し合いでの決め方は出来ない。



綱掛け井路の水漏れ点検管理

◆大吊橋・海外客の対応

.....出来る対策を検討していく

◆総合こども園病児対応は出来るか

.....急な発熱などには対応できる



佐藤 博美

●大吊橋案内所 海外観光客の対応

佐藤 外国人観光客が増加している。売上げを伸ばすためにも外国語に対応できる人を配置すべき。

町長 人材確保がむずかしい、海外の方はツアーで来るので、添乗員に対応して頂いているが、他にもできる対策を検討していく。

●宿泊客に 吊橋無料券配布

佐藤 観光の課題は、宿泊



吊橋で行われるイベント

者が少ないことにある。

町内宿泊者に吊橋無料券を配布すれば、口こみによる宣伝効果も期待できる。

町長 吊橋は町民のための施設であり、宿泊者だけの対応は、いかがなものか。

商業も厳しい中、買物客も含め、平等なものでなければならぬ。

●天空館、農産品売場 一号館の位置へ

佐藤 地元の農産品売場が土産品を売っている一号館から離れており、客足が遠く、

厳しい状況にある。

生産者協議会の強い要望でもある。一号館の所へ併設をし、今の場所に、軽食でもできる休憩所を設ければ、サービス向上になる。

町長 建設当初は、周辺の食堂などを活用して頂くために、それらの施設は造らないとしていたが、指定管理者、出荷者協議会、関係する皆さん方と、協議して、しっかりとやっていきたい。

佐藤 現状をしっかりと把握して、早急な対応を望む。

●総合こども園 病児保育はできるか

佐藤 子育ての中で、保護者にとって、子どもの病気というのが心配である。女性の社会進出を支えるうえで、総合こども園で、病児保育はできないか。



元気が一番(飯田こども園)

教育長 病児保育自体は出来ない。総合こども園においては、体調不良児対応型となる。

◎朝は良かったが昼から◎夕方急に発熱◎どうも調子が悪い。この様な子どもが出ると思われる。しかし保護者が都合で、どうしても迎えに行けない場合、施設的に対応できるようになる。

ただ、看護師の設置が義務づけられているため、今後は人材確保にむけて努力していく。

井上
里子



◆地方創生「町総合戦略」の 策定はどう進めているか

……町の創生本部とプロジェクトチームが中心になって

井上 今、町では地方創生のために、「町人口ビジョン」の策定と、それを踏まえた今年度から5か年間の「町総合戦略」の策定作業が進められているが、それに関して、次の点をお聞きする。

●「町人口ビジョン」の策定状況

●町総合戦略策定組織の構成

●町総合戦略策定への住民及び各業界（産・官・学・金・労・言）の参画状況

町長 ●町人口ビジョンの考え方として、2060年までに合計特殊出生率を県の指標である2・3を目指し、社会増減ゼロというビジョンで試算している。

それでいくと、2060年に6564人を維持できるといふ試算は出ている。

●総合戦略策定組織として、一つは九重町まち・ひと・しごと創生本部（三役と管理職）、もう一つは、作業担当としてのプロジェクトチーム（12名、男女同

数、年代別、26歳～35歳を多めに）

●住民による策定委員会委員の人選はまだしていない。各世代から選出する。産業界からは商工会、観光協会、農協等、「官」については西部振興局、「金」については、郡内金融機関から総合戦略の策定に協力してもらう。



年代別職員による地方創生の施策の検討会

●教育委員会の「点検及び評価報告書」の議会提出には説明も

井上 教育委員会は、毎年教育委員会が行う事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その報

告書を議会に提出するとともに公表することが義務づけられている。本町では、毎年9月に報告書が議員に配布されている。ただ配布だけでは理解しにくい。約40%の市町村が、本会議や委員会でも説明している。本町も、点検及び評価結果の重点部分を中心に議会への説明が必要ではないか。

教育長 多数ではないが、かなりの自治体が、本会議あるいは委員会での説明もしているということなので、必要があれば、議長、常任委員長の指示に従って十分説明したい。

●「町総合教育会議」での協議結果について議会に説明を

井上 改正地方教育行政法によって、首長が教育委員会と協議する場としての総合教育会議の設置と、教育大綱の策定が義務づけられ、本町でも「町総合教育会議」が設置され、まず、「町教育大綱」について協

議が行われていると思う。これからのことも含めて、会議での協議結果について議会への説明が望まれる。

町長 この5月7日に第一回の総合教育会議を開催し、主として教育大綱の策定について協議した。会議の結果は町のホームページに掲載している。議会にも説明が必要となれば説明する。

●行政情報の提供にケーブルテレビの活用を

井上 町のケーブルテレビで放映される内容に、町政に関する情報がほとんど無い。それで、町が実施しようとしている、また、実施中の主な施策や事業について、その内容、あるいは、進捗状況をケーブルテレビで住民に知らせるとよいのではないか。（例として示した7項目の内容は省略）
町長 今、例にあげられた内容についても担当部署から情報提供があれば、映像で流すことは可能である。

- ◆ マイナンバー制度の町の対応は
.....町民への周知を行い十分な対応を行う
- ◆ 地域防災・関係機関との連携は十分か
.....関係機関との組織化を図り連携していく
- ◆ 生涯スポーツでの活性化は
.....健康スポーツ運動の推進を行う



有吉 富生

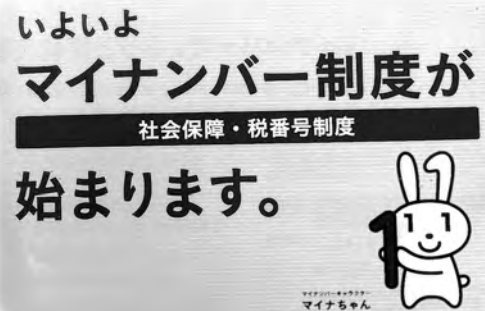
● マイナンバー制度の町民の理解は

有吉 マイナンバー制度の導入により十月から国民に個人番号が与えられるが利用方法や手続き等住民に説明不足である町の対応は。

町長 町も関連法案が交付されてから準備をしている。周知については広報の連載やケーブルテレビで随時情報を発信していく。

有吉 行政窓口での簡素化や多くの関連機関で、運用できることになりメリットも多くあるが、個人情報情報の漏えいやプライバシーの侵害など住民の不安も強いものがある、町の対策は十分に行えるのか。

町長 町では特定個人情報保護の評価をシステム的にしている。国においても今後より一層個人情報保護に向けてのシステムを構築していくものと考えている。



マイナンバー制度

● 地域防災は行政、関係機関と住民の連携が大切だが

有吉 緊急時の避難誘導計画や訓練が実状に合った計画書になっているか、見直しができているか。

町長 緊急対策等については町の情報機関を通じて周知しているが施設名等が現状と合わないものが生じているので見直しの必要がある。

有吉 近年河床洗掘による河川への倒木が見受けられるが、調査とダム設置等の

対策協議が必要ではないか。

町長 災害が多い中、防止ダムは必要であるが国の予算がつかねば実施は出来ない、これからも国、県に要望していく。

有吉 防災士の活動と関係機関の連携は取れているか。

町長 町内に118名の防災士がいるが重要性は年々増してきています、これからは組織化をして行政、消防団等の関係機関と連携した活動の場を創りたい。



災害につながる立木の流木

● スポーツでの地域活性化を図るには

有吉 町のスポーツの現状は。スポーツ振興にどう取り組んでいくか。

町長 町として調査はしていないがスポーツの行動者率は20年間低下している。町として誰もがスポーツに親しめる活動の場づくりが必要であり、総合型地域スポーツクラブの育成が必要と思っている。

有吉 健康ゲートボール大会の復活で健康予防と地域の連携に再度取り組んではどうか。

町長 この大会はスポーツを通じて、医療費の抑制を目的にしました、町としては夢クラブへ健康スポーツ運動を委託している。

あたしのひとこと

区長・二期目の感想

野上南区

篠原 信義さん



Uターンし早六年目を迎えています。自然相手の家庭菜園で楽しく心豊かにとおもっていたが、三年前いきなり区長の任命を受け、二年間は役割りを果たしたか疑問である。この間町づくり協議会の発足があり「パブリックコメント」が実施されたが「検討します。ご理解を」ばかりで説明責任は果たされたか疑問を感じる。また纏め方についても町づくり協議会で決めるのはよいが行政の示す方向性ありきのため区民の皆さんに説明しがたい状況であ

る。「検討します。ご理解を」ではやる気半減し、何か妙案がないかといわれても見つかりません。先般町議会の傍聴をしました。ふるさと納税を活用した宣伝、活性化効果の質疑がありました。行政の答弁は国から「返礼品の過剰なものは控えるよう通達も有り、華美にならない案で対処する」ようですが、他の自治体では数億の納税がされている成功例もあり九重町も「経営」と捉えて「出来ません」でなく「猿まね」といわれようが国から「規則等足かせ」のないうときこそ活性化を追求することが大事と思う。「出来ません、なぜならば」でなく何でもやろうとする責任感、実行力で美辞麗句でなく行動をおこせたらと思います。それには行政、議会、諸団体、個人の共助の精神が生まれることを望みます。九重町を活力のある町で存続するには皆さんの協力が欠かせません。それぞれの役割の完遂に努め頑張ります。

ここへのえのおもてなし

飯田中村上

時松 信子さん



山々の緑の濃さも増し、美しい季節となりました。緑一色に彩られる中で生活しています。と、この九重町に住んでいることに喜びを感じます。

七月に入り、おんせん県おいたデスティネーションキャンペーンが始まりました。

九月にかけて地方自治体及び地域の観光事業者等がJRRグループ6社と連携し、全国からの誘客を図ることを目的とする国内最大級の観光キャンペーンです。期間中、おおいたを訪れるお客様を県民総参加でおもてなしするため、「おもてなしサポーター」

が募集され、九重町も公民館等でポスターが見かけられます。

私も早速おもてなしサポーターに参加しました。

サポーターには、訪れたお客様に「笑顔であいさつ」「積極的な声かけ」や清掃、花植え等を実践するものです。

九重には、豊かな自然、温泉、食などの農産物等のたくさん魅力があります。自然と調和した観光づくりを目指しながら、地元の農産物や特産品なども観光に活用させてもらい、ゆつくりと楽しむ宿泊滞在型へと増えたいと思っています。

「九重町に来て良かった」「また来たい」と思っていただけファインが一人でも多く増えるよう、しっかりと九重町の魅力をお伝えしながら、笑顔のおもてなしをしたいと思っています。



昭和26年 河上岳より栗野を望む
当時の橋は竹の手作りだったとか？

傍聴へ どうぞ

次回は9月です



写真提供：九重土地改良区

議会だよりについて
ご意見をお聞かせください。【議会事務局：76-3814】

編集後記

◆会期を終え、改めて、全ての町民に等しく光が当る施策の実現にむけ、「議員定数」について考えました。

近年、定数減を行う議会も多く、当然、公費を使うわけですから町民の厳しい監視を受けねばなりません。

その上で、我町は広大な面積に多くの集落が点在し様々な形態で生活しています。

その一人ひとりが政策から漏れてはなりません。

また、過去3つあった常任委員会も、今は2つ。行政の半分もの内容を1つの委員会が審議検討をしています。

町民の意志を代表する機関として、議員定数の減は本当の意味で町民の為になるのだろうか。

皆様の様々な意見もあるうかと思っています。

御意見を、お待ちすると共に、皆様の話題のひとつにして頂ければ幸いです。

佐藤 明郎

・広報委員長 大津留敏加
・副委員長 佐藤 明郎
・委員 井上 里子
・委員 小川 克巳
・委員 藤原 三治
・委員 有吉 富生